

韓国の植民地化（朝鮮総督府）



(上から)

- * 田村哲夫文庫1089「絵はがき（朝鮮名所）京城朝鮮総督府」
- * 雑誌文庫 朝鮮69「朝鮮 第138号」
- * 田村哲夫文庫1047「絵はがき（朝鮮名所）京城景福宮光化門」

解説

910（明治43）年、日本は韓国を併合し、韓国統監府に代え新たに朝鮮総督府を置き、武力を背景とした植民地支配を進めました。

写真上は、朝鮮総督府旧庁舎の絵はがきです。朝鮮総督府は、当初韓国統監府の庁舎を引き継ぎ、これに増築工事を施して使用していました。1926（大正15）年、朝鮮総督府は朝鮮国時代の王宮である景福宮の敷地内に新築・移転されました。

写真中は、朝鮮総督府新庁舎の竣工式の写真です。朝鮮総督府発行の月刊誌『朝鮮』第138号（大正15年11月号）に掲載されたもので、竣工式典の様子が紹介されています。

写真下は景福宮の正門（光化門）の絵はがきです。この門は、新庁舎建設にともない取り壊される予定でしたが、美術・民芸評論家の柳宗悦（やなぎむねよし）が取り壊しに反対する論文を発表したことをきっかけに、朝鮮や世界で反対世論がまきおこり、門は移築・保存されることになりました。

- * 田村哲夫文庫の中には、他にも「聚落美の都市京城市街」（田村哲夫文庫1091）など、戦前の朝鮮の様子を写した絵はがきがあります。